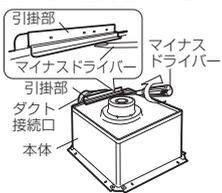


4. 据付方法 つづき

野縁に据付ける場合

野縁の強度が十分でない場合は天吊金具を併用する



- ダクト接続口の取りはずし**
- 図のように本体と引掛部のすき間にマイナスドライバーを差し込み、回してダクト接続口をはずす。
- お願い**
- ダクト接続口は無理に引き抜かないでください。

(1) 野縁組立

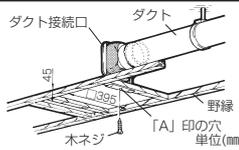
- 図のように天井の野縁と補助野縁に据付枠を組む。(野縁高さを45mm以上で据付けると、シャッター開閉不良、異常音の原因となります)

お願い

- 天井がたわまないように、十分強度のある野縁に据付けてください。
- 野縁を組立てる際は、据付穴のピッチと据付穴の詳細図をご確認ください。内寸法が大きいと、木ネジが垂直に打てなくなり、野縁の割れによる固定不具合が発生します。

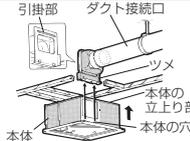
(2) ダクト接続口の固定

- ダクト接続口をダクトに差し込み、野縁の角の直角に合わせ、すき間がないよう付属の木ネジ1本で仮固定する。「[A]」印の穴を使用
- 強化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向7°)



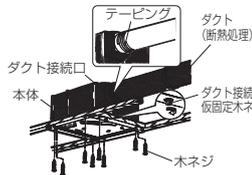
本体の差し込み

- 本体の穴とダクト接続口の内側のツメおよび本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続する。



本体の固定

- 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ8本で本体をすき間のないようにしっかりと固定する。(すき間があると風漏れの原因となります)
- ダクト接続口を仮固定している木ネジ1本を締め付ける。
- 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。



お願い

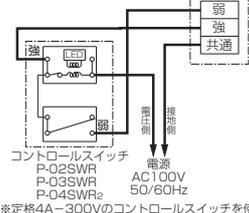
- ダクト接続口は無理な力がかからないよう注意してください。(無理な力がか加わるとシャッター開閉不良や風漏れの原因となります)
- 結露防止のため、本体から壁面までのダクトには必ず断熱処理をしてください。

4 電気工事

電線工士の接続や接地工事を行う場合は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令(および同解説)」および「内線規程」に従い実施してください。

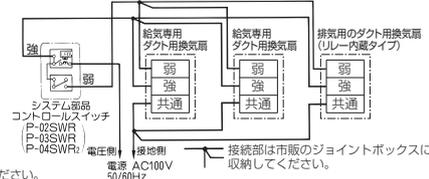
■結線図

(太線部分を結線する)



■排気用のダクト用換気扇(強弱付)と連動する場合

…(例) 給気専用ダクト用換気扇2台と排気用のダクト用換気扇1台の場合

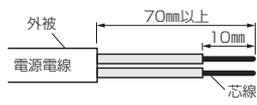


- お願い**
- 結線間違いや異電圧印加などの誤結線を行いますとモーターが故障します。誤結線によるモーター故障の場合、サービス費用(交換部品代含む)はお客様の自己負担となりますので結線図を十分ご確認の上、結線してください。
 - 寒冷地など氷点下で運転される場合は、排気と給気にそれぞれ専用のスイッチを設けてください。連動運転ではフィルターが凍結するおそれがあります。

■結線の前に

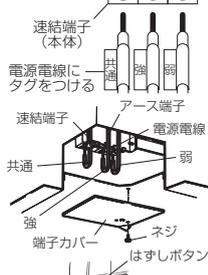
お願い

- 電源電線の外被は70mm以上皮むきしてください。
- 電線被ふくは10mm皮むきしてください。端子カバーに刻印されている皮むき寸法図に合わせて皮むきすると便利です。(10mm以上むくと漏電の原因となります)
- より線を結線する場合は、棒状圧着端子(市販品)をより線に取付けてから速結端子に確実に差し込んでください。
- 電源電線は、接続部に力がかからないよう本体付近で約150mmたるませて、本体上部のモーターに接触しないようにしてください。
- アース工事の際は、単線φ1.6またはより線1.25mm²をご使用ください。(圧着工具は日本圧着端子製 YHT-2210をご使用ください)



●電気配線の識別

- 電気結線を間違えるとモーターが故障します。
- 正しく結線するために、電気工事の際、各電源電線を識別できるようにしてください。



■結線方法

- 本体上部のゴムブッシュより電源電線(屋内配線 VVFケーブルφ1.6またはφ2)を通す。
- 端子カバーのネジ1本をゆるめて端子カバーをスライドさせてあげ、速結端子に皮むきした芯線を確実に奥まで差し込む。(右図参照)
- 端子カバーを端子カバーのあけ方と逆の手順で取付け、ゆるめたネジ1本を締め付け固定する。

●電源電線ははずす場合

- マイナスドライバーで速結端子のはずしボタンをまっすぐ押しながら電源電線を引いてはずしてください。

本体を野縁に据付けている場合は **7 天井材を張る** へ つづく

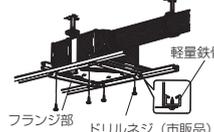
5 軽量鉄骨を組む

軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで内寸が□395mmになるよう据付枠を組む。



6 本体の固定(メンテナンスができるよう固定)

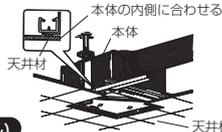
本体フランジ部の据付穴を利用して、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する。



7 天井材を張る

本体を軽量鉄骨に据付ける場合

- 天井材を張る。
- 本体の内寸法に合わせ、天井材に角穴を開ける。

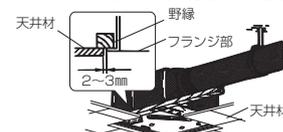


お願い

- 本体固定の際は本体と天井のすき間のないよう固定してください。(すき間があると風漏れの原因となります)
- 天井材の厚さは25mm以下で据付けてください。(グリルが天井材に密着しない場合があります)

本体を野縁に据付ける場合

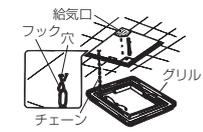
- 天井材を張る。
- 本体のフランジ部分と天井材とは必ず2~3mmのすき間があくよう角穴をあける。



8 グリルの据付け

1 落下防止チェーンを据付ける。

- グリルの給気口側を確認後、グリルにチェーンが付いていますのでフックを本体の穴に右図のように引掛けます。



2 グリルを据付ける。

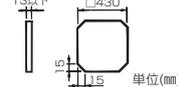
- グリルには、2つのパネが付いていますので両手でパネをつかみ本体内部の長穴に差し込み、手を放し軽くグリルを押し天井材に密着させます。



グリルと天井材を合わせる場合

グリルと天井材が同一で見えの良い据付けかたです。

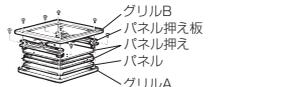
1 天井材を切断する。



- お願い**
- 天井材は厚さ13mm以下のものを使用してください。
 - 天井材は重いもの・われやすいものは避けてください。(1.5kg以下)

2 グリルを分解する。

- グリルBのネジ4本をはずします。
- パネル押え板のネジ4本をはずしパネル押え板、パネルを取りはずします。

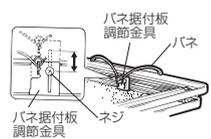


3 天井材とパネルを入れ替え、天井材の厚みに応じてパネル押え板を使用し、すき間のないように組立てる。

グリルと天井材の間にすき間がある場合

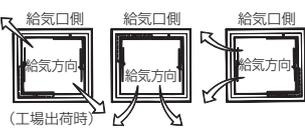
グリルのパネが本体の長穴に届かないときはパネ据付板調節金具の長穴分をスライドさせて調節します。

- ネジをゆるめ天井材の厚みに応じてスライドさせネジを締め付け固定します。左右同一の調節をしてください。
- 天井材とグリルの間にすき間がないことを確認してください。



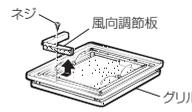
給気吹出方向を変える場合

給気による肌寒さをやわらげるために、グリルの風向調節板の位置を変えることで給気方向を3通りに変えることができます。



※給気口側は固定されていますので位置を変えたり、はずしたりしないでください。

- 風向調節板のネジ1本をはずします。
- 給気方向を決め、はずした風向調節板をグリルの穴に合わせネジ1本で締付けます。
- 給気側に風向調節板がくることを確認してグリル本体に据付けます。



5. 試運転およびお客様への説明

- コントロールスイッチがある場合は、切/入、強/弱切り替えが正しくできるか確認してください。
- 異常な音や振動がないか確認してください。

お客様への説明 別冊の取扱説明書に従って、正しい使い方をお客様、発注者(オーナー、ゼネコン)または管理者に説明してください。

■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原因	点検・処置
電源スイッチを入れても羽根が回転しない	分電盤のブレーカーが「切」になっている	ブレーカーを「入」にする
強く結線されていない	正しく結線されていない	結線を確認する(スイッチ部/電源線接続部) ※換気扇にAC100Vが供給されていることを確認する ※「共通」への結線が正しく接続されていることを確認する
本体・フィルター・グリルが確実に据付けられていない	正しく据付け直す	異物を取り除く
フィルター・グリルに異物が付着している	異物を取り除く	本体の固定を確認する
本体の固定(天吊金具・ネジ止め)が弱い	本体の固定を確認する	ダクトのつづれ、急な曲がりやを修正する
換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管)	換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管)	ダクトのつづれ、急な曲がりやを修正する
換気風路の抵抗が大きい(屋外フード)	換気風路の抵抗が大きい(屋外フード)	屋外フードのほこりを清掃する(特にリフォーム時)
換気風路の抵抗が大きい(フィルター)	換気風路の抵抗が大きい(フィルター)	フィルターを清掃する

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒町1番3号